

生きがい

区分	令和2年度 目標値	令和元年度 実績値	
会員数 (人)	1,140	1,052	男性 774 女性 278
契約金額 (千円)	490,000	463,598	



県シ連の綿貫会長と伊藤忠会員(右)

一席に選ばれたのは今回が初めて。その作品が県シ連、さらに全シ連のスローガンに採用されるなんて。平易な言葉遣い、簡潔な文章づくりを心掛けてきたので、それが認められてうれしい」と感想を述べていました。

伊藤忠会員(八〇)の安全標語が、全国シルバー人材センター事業協会の本年度安全就業スローガンの最優秀作品に選ばれました。
当センターの令和元年度安全標語一席に採用されていた伊藤会員の作品は、県シルバー人材センター連合会の選考審査で各センターから応募のあった作品の中から令和二年度の最優秀作品に選ばれ、全シ協が六月に各都道府県連合会から推薦を受けた作品の選考審査を行い、伊藤会員の作品が最優秀作品として選ばれました。作品は全シ協の令和二年度から三年間の安全就業スローガンとして活用されます。
この五年間、安全標語に応募してきたという伊藤会員ですが、「作品の入選は過去三回、当センターの一席に選ばれたのは今回が初めて。その作品が県シ連、さらに全シ連のスローガンに採用されるなんて。平易な言葉遣い、簡潔な文章づくりを心掛けてきたので、それが認められてうれしい」と感想を述べていました。

伊藤会員の作品が全国の最優秀スローガンに



定時総会会場の様子

令和二年六月十九日(金)午前十時より日立市多賀市民会館大ホールで開催しました。今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、委任状での対応をお願いしたため、出席者が通常開催時の四分の一程度で、異例の開催となりました。
総会では、理事長のあいさつの後、市長と市議会議長から寄せられたメッセージを紹介し、続いて報告事項・決議事項を審議し採決の結果すべての議案が承認可決され閉会しました。

令和二年度 定時総会を開催

目次

- 伊藤会員の作品が全国の最優秀スローガンに…… 1
- 理事長あいさつ…… 2
- エコな手づくり布マスク好評です…… 3
- 女性委員会活動報告…… 3
- シリーズ
「しるば一奮闘記・まちが活躍の舞台です」… 4～5
- いま熱中しています…… 6
- 編集後記…… 6

公益社団法人
日立市シルバー人材センター

〒317-0076 茨城県日立市会瀬町4丁目9番13号(福祉プラザ内)
TEL 0294-34-6018 FAX 0294-36-4510

メール hitachi@sjc.ne.jp

日立市シルバー

理事長挨拶



理事長
今橋 徹也

今年、日立市シルバー人材センターが発足して四十年という記念の年であり、これまでの長い年月や活動を振り返ってみるのに良い年だろうと思います。

私も理事長となって三年目に入り、この機会に過去の経緯をゆっくり整理・確認しようかと思っていたところ、突然に新型コロナウイルスという聞き覚えのないニュースが流れ始め、「海外でのことか」と思っているうちに「緊急事態宣言」が出され、外出自粛、イベントの中止、事業所や各種施設、学校の閉鎖など、誰もが未経験の社会状況が長く続くこととなりました。

まだまだ、コロナウイルスの感染拡大が収まる傾向が見えない中、日常生活はゆっくりと戻りつつありますが、この後の情勢は予断を許さないとされており、シルバー人材センターの活動にマイナスの影響を与える可能性を残したままとなっています。

しかし、こんな中でもいろんな場所で働き、活動している会員さんと顔を合わせると、「こうして働いていること、活動をしていること、生きがいを感じ、明るく元気な生活をしてい

ることが、一番の対応策なのではないか」といった思いが浮かんでしまいます。顔を合わせた会員さんたちは、どなたも見事なほどに元気です。

その元気や明るさを保つていくために、「新しい生活様式」と言われるルールを、生活や仕事、活動の中に取り込んでの対応が必要になると思われますが、何を行っていくにしても一番重要なことは「安全」であり、コロナウイルスへの対応を含め、自分と家族、そして友人などの大切な人を守るため、仕事でも日常生活でも、常に「安全」を心の中心に置いて行動していただければ幸いです。

茨城県で最初に発足した日立市シルバー人材センターの四十周年の年、この記念すべき機会を新たなスタート地点として、これまで以上に会員の皆さんが生き生きと活動する場を生み出し、そして市民の皆さんにも「あつてよかった」と感じてもらえる日立市シルバー人材センターとなるよう、引き続きのご支援とご協力をお願いいたします。



令和二年度 模範表彰者

- | | |
|---------|----------|
| 秋元 利夫氏 | 鈴木 昭一郎氏 |
| 吉田 良子氏 | 伊藤 尚武氏 |
| 佐藤 とし子氏 | 谷田川 テルエ氏 |
| 綿引 正男氏 | 門脇 隆男氏 |
| 吉野 央之氏 | 佐川 正博氏 |

令和二年度
**安全就業に関する
標語入選者**

【一席】

危ないぞ 言える勇氣と聞く心

注意しあつて安全就業

塙 早苗氏

【入選】

安全は心のゆとりと気の配り

伊藤 忠氏

ヒヤリハットは貴重な警告

仲間て共有事故防止

鈴木 國夫氏

災害は慣れと過信と油断から

初心に戻つて安全確認

柴田 源二氏

気を抜くなゆるむ心にひそむ事故

石井 喜代子氏

エコな 手づくり布マスク 好評です



ウイズコロナ時代の生活様式のあり方が問われていますが、使い捨てのマスクを使い続けるのはエコでないと、女性委員会(沼田ひろ子委員長)が、洗えば何度でも使用できる環境にやさしい手づくり布マスクの販売を始めました。

沼田委員長は「四月初めにはどこを探してもマスクは手に入らない状況でした。汚れたら捨てる市販のマスクより洗えば何度でも使えるエコな布マスクを作り、入手難の解消のお役に立ちたい」と立ち上がった経緯をこう説明しています。

布マスクは天然素材を用いたプリント柄などの立体型、平面型、肌に優しい子供用、大人用のガーゼマスクの四タイプと、外出時に携帯すると便利な布製のマスク入れです。女性委員会のメンバー五人と有志二人が加わり、三週間後にはマスク四百四十枚とマスク入れ三十四個を作り上げました。

口元を覆うマスク。何より気を付けたのが衛生面への配慮。使用材料は新しい生地でも、すべて洗ってから作ったと説明しています。カジュアルな装いか、仕事での使用か、などを想定し、生地の色合い、柄選びにも苦労したそうです。

販売を始めたのは四月二十一日から。販売価格は大人用ガーゼマスクの四百円以外は、すべて三百円に設定。まずセンター本部(会瀬町四丁目)の受付で。市内各地を巡回しながら、交流センターなどを会場に仕事をしている出張刃物研ぎ班が名乗り出て、販売に一役買ってくれたそうです。

ひと月後の五月半ばには布マスクは三百枚余りを販売、マスク入れは残り二個と、予想外の反響でした。

五月二十日に集合したメンバーは、これからは涼しい色柄、保冷剤を入れられる夏用マスク作りを始めたいと意気込んでいました。



「着け心地抜群、何よりエコです」と手づくりマスクを披露する女性委員会メンバー

女性委員会活動報告

去る三月三日、女性会員限定で「おひなさまランチの会」が、常陸多賀のすし店で催されました。いつもの仕事を離れて、ちよつとおしゃれをして、一生懸命の自分にたまにはご褒美を!

昨年十一月には、福祉プラザ内で茶話会が行われ、ハーバリウムを作りました。最近、おしゃれ雑貨店などでよく見かけるハーバリウムを簡単に手作りできるのに驚かされます。同様に七月にはランプシェードを手作りしました。

いずれの会も、女性委員会が企画し準備をすすめて実施されたもので、毎回三十人以上の参加者が集まります。参加された皆さんには好評で、初対面の人も話がはずみ、連絡先を交換するなど、和気あいあいでした。

日立市シルバー人材センターが発足して四十年になりますが、その中で女性委員会が結成されたのは七年前の平成二十五年です。まだまだ日が浅いともいえます。現在、同センター全体の会員数に対して女性会員数の割合は、二十六%です。この割合は、女性委員会が結成された当時から横ばい状態で、あまり変わっていません。今後、女性の入会をいかにして増やすか、女性に向く仕事の検討など、課題は多い。

今年度も、お花見ウォーキングやお出かけ会など、楽しい行事が予定されていますが、今般のコロナウイルスにより先行きが不透明となつていきます。一日も早い収束が待たれます。

シリーズ「しるばー奮闘記・まちが活躍の舞台です」

当センターは自治体、企業、一般家庭などから依頼される仕事をはじめ、独自に立ち上げた事業や、人手不足分野を中心とした派遣業務など、仕事の種類は多岐にわたる。これまでの豊富な人生経験をフルに生かし、仕事に励む会員たちの活躍の場をシリーズで紹介する。(シリーズ三回目)

手書きの価値を届ける「筆耕者」

筆耕(ひっこう)という言葉をご存知だろうか。辞書をめくってみると、筆を使い文字を書くことによって報酬を得ることをいう、と解説している。

今年十月に設立四十周年の節目を迎える日立市シルバー人材センターだが、筆耕という仕事は事業スタート年度から既に立ち上がっていた伝統ある職種のひとつだ。



出品作品づくりに励む書道同好会のメンバー

三月二十六日午前、センター本部がある福祉プラザ三階の一室に書道同好会の佐藤眞理男会長(六七)ら男女四人のメンバーが集合した。六月開催予定の定時総会は新型ウイルス感染防止のため変則開催となり、例年、会場に設けられた作品展示会はその後中止となったが、このときは出品作品を制作する目的で顔をそろえた。

その部屋を訪れたのは篠木里枝子さん(八二)。「亡くなった主人がお世話になりました。作品づくりも仕事も一緒にできなくなり、寂しい限りだと思います」とあいさつした。

昨年十二月末に亡くなった篠木進さん(当時八四歳)は同好会の師範代ともいえる存在だった。と同時に、平成八年(一九九六年)、六十一歳で会員登録してから二十三年間にわたり、筆耕の仕事に取り組んできた。筆耕グループのお手本のような存在でもあったという。

「証書、賞状の全文書き、年賀状などの宛名書き、何でもこなす方でした」と話しながら、佐藤会長は貴重な人材を突然失ったことを惜しんだ。

筆耕者の仕事はだれにでも分かりやすい字を書くのが本分だ。だから、一般書道とは一線を画し、実用書道を用いる。同好会の活動はあくまでも趣味としてだが、技術の習得を兼ねた学びの場にもなっている。

だが、同好会メンバーが多く名を連ねる筆

耕グループには高齢化の波が押し寄せている。昨年六月に筆耕歴二十二年のもう一人の柱を失い、危機感を募らせていた。

そこへ昨年十一月、日本賞状書士協会の実務筆耕書士資格者の助川智史さん(六三)が会員として入会。久々の若手の入会だった。

助川さんは昨年十二月から今年三月にかけて、年賀状の宛名書き、修了証書、終了証書、永年勤続表彰状と相次いで仕事依頼を受けた。「証書の全文書きは左から、授与者名、年月日、全文、氏名の順でミリ単位で行間のバランスをとりながら書いていくのですが、書きき終えるまでの緊張感が楽しくもあり、大変もあり、です」と心境をこう語った。

手書きの価値を届ける筆耕者は助川さんを加えて、七人となった。長い歴史のある仕事は途中、何度も、こうした危うさを乗り越えて伝統を紡いできた。



篠木さん(右から3番目)を囲んで思い出話に花を咲かせるメンバー

活躍の場を広げる「空き家サポートチーム」

近年、人口減を背景に空き家が増加し、放置されたまま空き家の適切管理は防災や環境衛生、都市景観など地域社会の生活に大きな影響を与えている。

日立市が「空家等対策の推進に関する条例」を制定したのを機にシルバー人材センターは、市と連携して対応支援をするため、平成二十九年十二月に協定を結び新事業を立ち上げた。

発足当時の依頼件数は十三件だったが、令和元年度には四十八件と依頼が急増し、これまで以上に協力体制を整えるため、令和二年四月に空き家サポートチームを設立した。サポートチームの業務内容は、管理サービスの建物、敷地の現状確認と庭清掃作業の除草、植木のせん定、管理地の整理などがある。

管理サービスを行っている。その一戸の管理作業に同行取材した。現場到着すると管理地の全体の写真を撮り、白作の建物図を見



気になる点は必ず写真を撮る

ながら前回との違いを確認しながら現状を念入りに再確認する。特に裏側は、人目に付かないため注意深く検証する。気になる点は写真を取り、前回の報告結果と照らし合わせ違いの有無を確認しながら、写真付きで報告書を作成。所有者へ報告書を出して作業終了となる。

空き家サポートを担当するようになった当初、管理する空き家周辺の住民に不審者と思われたことがあった。近隣住民は常に注意深くくなっている。このため作業前には、両隣にあいさつを行うようにした。シルバー人材センターから管理に来ているのだと安心してもらえるようになった。

空き家サポートには、もう一つ庭清掃作業がある。軍司洋道さん(六六)をリーダーに七十代のMさん夫婦とこの日が初参加の七十代の女性Tさん、そして関壽男さん(六三)の五人でチームを編成。関さんは今回で十五回ほど作業を行っている。八時に作業開始すると、それぞれがほど良い距離を取り作業を始めた。初参加のTさんは、Mさんの奥さんからいろ



庭清掃と塀の外側の除草を手際よく作業



依頼主の希望に沿って、できるだけ短くせん定

いろ方法など指導を受けながら丁寧に作業を進めた。軍司さんは脚立を使い松、ユズなど植木のせん定を専門に行い、鉢類が多い庭のため脚立の足場設置に苦労しながら、依頼主の要望でできるだけ短くせん定してとの希望にそって作業を進める。塀の外側の除草も重要な作業の一つであり、関さんが専念して作業する。今回の依頼主の敷地は広い上に庭木も多く一日では終わらず、次の日も仕上げ作業を行った。トゲのあるユズやバラの小枝などはけがの防止のため今回は機械を使いチップ状にして袋詰めにした。大きめの枝は荒縄で結わえてまとめた。二日間の作業は指定の袋に三十五袋、小枝が九束となり、庭がサッパリと生き返った。作業を終えて満足げに眺め、ほっとした様子だった。



わが家のバラ作り

わが家のバラ作り

小野寺 攻

いま熱中しています!

妻が退職する二年前ぐらいから、何か趣味を持たなくてはということ、バラ作りに挑戦、初めの頃はいろいろな種類のバラを植え、肥料やせん定などで苦労していたようだ。私もつるバラの誘引などを手伝っているうちせん定の仕方に興味を持った。せん定の目的は見たい位置に花を咲かせること、また、枝の数を減らし養分を残った枝に集中させれば大きな花をたくさん咲かせることが分かった。

だが、わが家には庭を駆け回るかわいいペット二匹(メロ&ぼん太)がいるため消毒は一切していない。木酢液で消毒、アブラムシは手袋をしてしごく、それでも毎年きれいな花を咲かせてくれる。

今年もつるブルームーンが良い香りを放ち咲き始めました。五月中旬ごろからいるんな種類の花が咲きほころぶのが楽しみです。

編集後記

特別養護老人ホームの宿直業務を担当しています。先日、業務を終えて引き上げようとしたら、施設の事務長に呼び止められました。このところの新型コロナ感染症の急拡大で、多くの高齢者が入所する施設では再び緊張が高まっているということでした。

事務長から「状況次第では緊急事態宣言時より、さらに厳しい感染防止策を講じることになると思います。シルバー人材センターの皆さんも協力してください」と真剣な表情で要請されたのです。改めて自らの日常行動を律さなくては、と心に刻みました。

(広報委員 澤島)

新役員紹介



事務局長 渡辺 祐一

四月一日付で事務局次長を拝命いたしました。会員のみなさん、役員の方々と共に力を合わせ、日立市シルバー人材センターの発展と地域社会の活性化のために力を尽くして参る所存です。今後ともよろしくお願いいたします。



係長 鈴尾 信平

四月一日付で事務局係長を拝命しました鈴尾と申します。いろいろと至らない点もあるかと思いますが、職務を全うできるよう尽力し、さらにまい進して参ります。今後とも会員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

会員募集中!

「地域に元気、自分もいきいき
シルバー人材センターで
一緒に活躍しましょう!!!」

入会案内や申込書は、
シルバー人材センター、高齢福祉課、
各支所、交流センターなどにあります。

入会お待ちしております
おられます!



入会希望者説明会日時

令和2年

- ・ 8月20日(木)
- ・ 9月17日(木)
- ・ 10月15日(木)
- ・ 11月19日(木)
- ・ 12月17日(木)

令和3年

- ・ 1月21日(木)
- ・ 2月18日(木)
- ・ 3月18日(木)

時間 9時30分から正午まで

会場 福祉プラザ